部マデ消毒サレ、中性ニシテ多少殺菌力アル
根管充填材ニ依テ根端孔迄完全ナル根管充填
が行ハレルベキ豫測サヘツケバ肉芽腫ノ治療
ハ大ニ根管ヨリ施スベキデアル。

(小林忠正)

補綴科

瓣縁義歯ニ於ケル賦活邊緣ニ就テ

Der Aktivierungsrand an der Ventilrand-
prothese.

Von Prof. Dr. C. Scheidt (Stuttgart)

Deutsch. Zahnärztl. Rundschau

Nr. 9, 1937.

著者ハ吸着盤ヲ使用セネバ維持ノ困難ナ義
歯デモ口腔前庭ニ於ケル瓣狀邊緣ト口蓋側後
方ノ義齒縁トヲ注意スル事ニヨツテ良結果ヲ
得ルコトガアルト述ベテキル。

著者ハコノ第二ノ口蓋側後方邊緣ヲ特ニ賦
活邊緣ト名付ケ之ノ具フベキ條件トシテ

- 1) 後縁ハ出来ルダケ軟口蓋上ニ在ル事。
- 2) Hauptmyer 氏ノ Nasenblaseeffekt (後
述)ニ依ツテ得ラレタル機能形態ヲ有スル事。
- 3) 瓣ニ對スル條件ヲ充シテキル事。
- 4) 顎ト牀トノ間ニツノ空室ヲ有スル事
等ヲ舉ゲテキル。

コノ空間ハ空氣ノ稀薄ナ空室トナリ義齒維
持ニ役立つ。後方邊緣ハ硬イ口蓋ト可動的ナ
口蓋帆トノ移行部ニ於テ隆肉様ニ肥厚シタ邊
縁ヲ以ツテ軟口蓋ヲ壓迫スル様ニ調整サルベ
キデアル。

コノ製作ニハ非常ニ良イ地鐵ガ適シテキ
ル。コノモノヲ平均ナ厚サノ幅 3 mm 位ノ帶
狀トシ機能印象デ作ツタ床ノ邊緣ノ顎ニ當ル
側ニ粘着セシメ少シ暖メテ顎ニ對シ平均ナ壓
力テ壓迫スル。此ノ場合長時間壓迫シテキル
ト地鐵ガ軟化シテ肥厚部ヲ消失スル恐ガア
ル。又強力ニ懸引シタリ加壓シタリシテハナ
ラヌ。

施術過程

1) 幾分軟カ目ノ石膏ヲヨク合ヘセタ市販
ノ「レツフェル」ニ盛り出来ルダケ低位ノ印象ヲ
採得スル(解剖的位置印象)。

第 1 圖

種々ナ形ニ形成サレタ義齒後縁ノ比較

- a) = 何ノ解剖的機能の意味モ有セ
ヌ形成ニシテ瓣形成モ賦活邊
縁モ出来ヌ。
- b) = 解剖の意味ヲ有シ邊緣ハ至ル
所可撓性粘膜床ノ上ニアリ瓣
形成可能ナリ。
- c) = 最モ目的ニ適ツタ形成ニシテ
之ハ Hauptmyer 氏ノ Nasen-
blateneffekt ニヨリ得ラル。
- d) = A『リニエ』ニヨリ得ラレタ形成

第 2 圖

機能印象ニヨリ得タ床ニ地鐵ノ
帶ヲ附著セシメ瓣邊緣採得ノ目
的ニ供シタル床ノ矢狀断面

第 3 圖

(上) 解剖的位置印象ヨリ得タ義
齒床ノ安靜位ニ於ケル前頭断面
(下) 咬交印象ヨリ得タ義齒床ノ
安靜位ニ於ケル前頭断面 咬交
時ニハ骨ニ對シ一樣ニ負擔ガカ
カリ安靜時ニハ空氣稀薄部位ガ
生ジテ維持良シ。
a) 骨 b) 粘膜 c) 床

第 4 圖

賦活邊緣ヲ有スル床ノ安靜位矢
狀断面ニシテ床ト粘膜ノ間ニ空
氣稀薄腔ヲ生ジヨク吸著ス。

a) 空氣稀薄層

第 5 圖

機能的ニ形成セラレ賦活邊緣ヲ有セ
ザルモノデ僅カ後縁ガ離開シタバケ
デモ空氣ガ侵入シ床ハ脱落スル。

2) 硬化ノ間ニ石膏ガ軟膏様ニ少シ硬化シ
テ來タ時ニ「レツフェル」ヲ顎ニ對シテ平均ニ壓
迫スル(咬合壓模倣ノ目的)。

3) 同時ニ頬ヤ唇ヲ下方ヘ引張り幾分運動
セシメル。尙外頬部カラ輕ク顎ニ向ツテ摩擦
スル(機能的邊緣形成及ビソノ厚サヲ決定スル
目的)。

4) 前以ツテ患者ヲ充分練習サセテ居イテ
患者ヲシテ鼻翼ヲオサヘ輕ク鼻腔ニ空氣囊ヲ
作ラセル、其ノ目的ハ其ノ際口蓋帆ヲ下前方
ヘ膨マシテ後方ヘ溢レテキル石膏ノ過剩部ヲ
壓シテ後方邊緣ノ走行ヲ決定スルノデアアル。
(Hauptmyer 氏ノ Nasenblaseeffekt)

5) 石膏印象ノ陰形ト顎トヲ比ベテ硬イ尖
銳ナ部分ヤ粘膜ノ鋭敏ナ部分ヲ鈍刀ヲ削リ取
ル。削リ取ル量ハ硬イ所ト軟イ部分トノ間ノ
壓排率ノ差ニヨリ決定スルモノデアアルカラ正
確ニ印象ヲ採ル場合ニハ個人印象蓋ヲ用フル
カ又ハ古い床ヲ「ガツタパーチャ」ヲ裏装シテ
咬マセレバヨイ。

6) 陰形ニ石膏ヲ注入シ模形ヲ作ル。コノ
模型カラ一ツ「レツフェル」ヲ亞鉛板デ壓印ス
ルカ又ハ蒸和ゴムヲ蒸和スル。

7) コノ床ノ邊緣ニ印象ノ邊緣カラ認メ得
ベキ厚サダケ外側カラ硬イ練性ノ「アル」材料
ヲ平均ニハリツケ「レツフェル」ニトカシ付ケ
ル。

口腔前庭ニ於ケル瓣邊緣ノ形成

以上作ラレタ「レツフェル」ノ邊緣ヲ少シク軟
化サセテ粘膜ノ枕ノ中ニ少シ壓迫ヲ加ヘテ入
レル。スルト硬イ床邊緣ト軟イ粘膜枕トノ間
ガ確實ナ閉塞ガ得ラレ空氣ハ少シモ入ラナ
イ。若シ一個所デモ硬イ床ノ邊緣ガ硬イ粘膜
部ノ上ニ在ル時ハ上述ノ瓣邊緣ハ得ラレナ
イ。最後ニ上顎隆起ニ於ケル瓣邊緣ヲ決定ス
ル。先ヅ邊緣ノ材料ヲ加温シテ少シ軟化サセ
口ヲ開ケサセテ頰側ト遠心カラ隆起ニ向ツテ
示指デ壓迫シ後ニ患者ヲシテ閉開運動ヲ繰リ
返ヘサセル。

コノ隆起ノ後方ノ軟組織ノ部分ニ硬イ床邊
緣ヲ機能ヲ害セズ延バス事ガ出來ナケレバ良
イ吸著ハ望メナイ。サテ次ハ機能的ニ決メラ
レタ後方邊緣デ最モ大切ナ賦活邊緣ヲ作ラナ
ケレバナラス。昔ノ技工士ハ模型ノ上デコノ
様ナ邊緣ノ厚ミダケ模型ヲ削リ取ツテ作ツタ
之デモ同様ナ效果ヲ得ラレルガ幾分ノ不正確
ハ免ガレナイ。口腔前庭ト同様ニ邊緣ニ盛り
上ゲタ地蠟ヲ軟化シ壓迫シテ得ラル。斯クシ
テ患者ヨリ採得セル印象カラ最後ノ床ガ作ラ
ルノデアアル。

(西村抄)

陶材外装部ヲ有スル新冠ニ就テ

Eine neue Goldkrone mit Porzellanfront

Von

Dr. S. Philipp, Lüneburg.

Zeitschr. f. Stomatol. Ht. 18, 1936.

著者ハコノニ生活齒髓ノ場合ニ新冠ト同様
ナ抵抗力ヲ有シ、シカモ天然齒ノ如キ美シサ
ト自然サトラ有スル陶材被覆新冠ノ如キモノ
ヲ考案セント20年來研究ノ結果次ノヤウナ結
論ニ到達シタト述ベテキル。

1. 新冠ハ普通ノ新冠或ハ陶材新冠ノ如
ク生活齒ニ適用出來ネバナラス。